

Governor's Monthly Letter

G M

ガバナー月信
会長・幹事殿

Rotary
District 2710

2025-26 ROTARY
INTERNATIONAL
District 2710

Vol. **10**
2026.4

手に手つないで

会長・幹事の皆さま、そして会員の皆さま、こんにちは。
先日、ある会員の方に「なぜIMをやるの?」という質問を受けました。
IM(インターシティ・ミーティング)とは複数の都市のクラブで実施する、
ロータリアンがロータリーへの理解を深め、そして会員同士の親睦を深めるための会合です。
ロータリークラブの活動はクラブが主体ですが、意外と他のクラブのことは知らないものです。
グループ内のクラブ会員が集まり、皆でロータリーについて考え、あとは懇親会、
この懇親会が大切かと思います。
私は、IMは“グループ単位の炉辺会合”、それ位でいいと思っております。
そして最後の「手に手つないで」
ほろ酔い気分で「また来週から頑張ろう」と思えたら
立派なロータリアン?かど…。
ちなみに「手に手つないで」は、
歌詞が1番と2番で微妙に違いますよね。

Enjoy Rotary

皆さんロータリーを楽しみましょう。



Contents

ロータリーのビジョン声明とRI会長メッセージ ... 02	環境への取り組み 吉舎RC 10
地区ロータリー財団勉強会報告 03	IM報告 G2 12
国際協議会に参加して「よく学び よく交わる」... 04	IM報告 G3 13
韓国3690地区との日韓交流事業受け入れ報告 ... 06	IM報告 G6,7 14
岩国中央RC 創立40周年記念式典報告 07	第16期RLI part I 報告 15
環境への取り組み 福山北RC 08	新会員紹介/会員の増減・出席率 16

《今月の特別月間》

環境月間





ロータリーのビジョン声明とRI会長メッセージ

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 ガバナー
土肥 慎二郎

私はクラブ公式訪問で「ロータリーのビジョン声明をクラブに浸透させるために、今年度より、国際ロータリー(RI)会長テーマを廃止して、メッセージになります」と言いました。

英語が苦手な私ですが「ロータリーのビジョン声明」は以下の通りです。

TOGETHER, we see a world
where PEOPLE unite and take action
to CREATE lasting CHANGE
across the globe, in our communities, and in ourselves.

私たちは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で
持続的な良い変化を生むために
人々が手を取り合って行動する
世界を目指しています

この一部分をとって、今年度は「よいことのために手を取り合おう」でした。

そして、次年度ババラ会長エレクトは「持続可能なインパクトを生み出そう」というメッセージを出されました。
(本月信の4,5ページをご参照ください)

じゃあ、その次は何だろう？ 私たち同期ガバナーの中ではいろいろと予想しています。

「行動しよう！世界の何処かで」とか、
「自分自身の中で…」というのもいいかも、とか…

こんなことを考えているガバナーたちですが、残りあと3カ月です。

Let's Enjoy Rotary!



2025-26年度 地区財団勉強会実施報告

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 地区ロータリー財団委員長
白石 民彦

日頃よりロータリー財団の活動に対し、多大なるご理解と多額の浄財をお寄せいただき、心より厚く御礼申し上げます。

去る1月31日(土)、今年度の補助金申請に向けた「クラブ参加の認定(MOU)」を兼ねた「地区財団勉強会」を開催いたしました。本会は各クラブから最低1名以上の参加が義務付けられている重要な研修です。当日は地区内56クラブより計105名もの皆様にご出席いただきました。この多数の出席は、皆様の補助金活用に対する関心の高まりと、「地域社会や世界へ貢献したい」という意思の表れであり、財団委員会としまして手応えを感じ、身の引き締まる思いでございます。

勉強会の3つのテーマと、その狙い

今回の勉強会では、以下の3点をテーマとしてプログラムを構成いたしました。

1 2710地区における財団活動の現状認識

世界規模での人道支援の中で、我々2710地区が果たしている役割と寄付の推移を共有し、ロータリアンとしての自覚と誇りを再確認する。

2 地区補助金の深い理解とイメージの醸成(事例研修)

今回の研修の「重点項目」として、全体の半分以上の時間をこのセクションに充てました。具体的な昨年の案件に基づいた事例研究とそれに伴う補助金審査会議の財団委員会としての視点を盛り込み、今後の申請に役立てていただくことで、制度の理解に留まらず、各クラブでのプロジェクト立案に向けた具体的なイメージを醸成していただくことが主旨です。

3 年度末目標(ガバナー寄付要請額)達成への拘り

本年度も残り5か月となり、目標達成に向けた最終的な進捗を共有いたしました。皆様の善意が「世界で良いことをしよう」に直結することを改めて認識していただきました。

前年度実績への感謝と、運営の変更

ここで、昨年度(2024-25年度)の素晴らしい実績をご報告し、感謝を申し上げます。昨年度は、ガバナー要請3項目すべてを達成されたクラブが25クラブに上りました。当地区の約3クラブに1クラブが完全達成という結果を成し遂げられたこととなります。皆様の献身的なご協力に、改めて敬意を表します。

しかし、財団運営を取り巻く環境は変化しています。次年度(2026年7月～)より、DDF(地区財団活動資金)

の繰越しが「5年間のみ」に制限されます。5年以上経過した繰越金は保持できなくなるため、これまで以上に戦略的かつ積極的な資金活用が求められます。

地区財団委員会は、皆様から託された大切な寄付を、一つでも多くの素晴らしいプロジェクトに変えていけるよう、グローバル補助金・地区補助金ともに、これまで以上に、しっかりと申請のサポートをさせていただく所存です。

当日の研修プログラム

- 補助金について
(制度の基本と申請のポイント)
- 財団奨学生・平和フェローについて
(重点項目に基づく次世代のリーダー育成)
- ポリオプラスについて
(根絶に向けた最終局面の支援)
- ロータリーカードについて
(日常の活動を通じた財団支援)

結びに

補助金は、皆様の「想い」を具体的な「支援」へと変換する強力なツールです。本勉強会で共有した知識と情報を各クラブに持ち帰りいただき、2710地区が一丸となって「世界でよいことをしよう」を具現化していきましょう。

今後とも、ロータリー財団への変わらぬご協力と、積極的なプロジェクトへの挑戦を心よりお願い申し上げます。実施報告とさせていただきます。





国際協議会に参加して「よく学びよく交わる」

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 ガバナーエレクト

脇 和也

(宇部RC)

2024年4月にガバナーノミニーとなった当初から「アメリカでの研修」がガバナーへの関門と開いていた国際協議会でした。そしていよいよ現実となったそのステージに立ち、やり終えた感想は一口でいえば「よく学びよく交わる」でした。

協議会は2026年1月11日から15日まで米国フロリダ州オーランドで世界各地から512人のガバナーエレクトをはじめ国際ロータリー関係者やスタッフなど総勢1500人が集い開催されました。

日本からは、34地区のエレクトのうち事情により急きょ交代の1人を除く33人とそのパートナー、また水野功RI理事夫妻をはじめ役員関係者らあわせて約70人が参加しました。厳冬の日本を離れてオーランドの地は摂氏20度前後と日本の4月上旬ごろの恵まれた気候でした。もっとも滞在中は施設からは一步も出ることはなく、中庭で陽光を浴びるのがせいぜいでした。

期間中のスケジュールはまさに分刻みでした。朝から60分の本会議に始まり、午後にかけて1回90分の分科会が複数回ありました。計算すると「学び」だけで延べ20時間以上を費やしたことになります。

最も印象的だったのは最初の本会議でした。1000人以上が詰めかけた広い会場内でオリンピックの入場行進よろしく参加した世界各国の国旗の入場で始まりました。そして一連のセレモニーが終わったあとに協議会参加の大きな目的の一つだったRI会長エレクトの次年度メッセージの発表がありました。

ナイジェリア出身のオンラインカ・ハキーム・ババロラ会長エレクト(以下ババロラ会長エレクト)はおおらかで落ち着いた雰囲気の人で、メッセージを「持続可能なインパクトを生み出そう」(CREATE LASTING IMPACT)と野太い声で発表しました。

ロータリー大規模プロジェクトの補助金200万ドルを得て国内の妊婦と乳幼児の死亡率低下に決定的な成果をもたらした自らの経験がメッセージの背景と聞きました。まさに行動人です。

ババロラ会長エレクトはナイジェリアの恵まれた家庭で育ちましたが、10代で入会したローターアクトで重ねたさまざまな経験からそれまでの限られた視野から世界に目を向け考えるようになったと青年期を振り返りました。また社会へ出てからはロータリアンとして活動する一方で世界的に名の知れた企業で働き、現在は複数の会社を経営し同国内の代表的な経済団体のメンバーの一員としても活躍している人物です。

印象的だったのはローターアクト時代のエピソードでした。ロータリークラブへ入会を希望したときの体験です。入りたいとロータリークラブの会長に伝えたところ「彼(会長)はこう言いました。何という厚かましきだ！ただ入会できるわけがないだろう。招待が必要だ」と言われたそうです。それに対してババロラ青年はこう言いました。「子どもが親の家に入るのに招待が必要だとは知りませんでした」。見事な切り返しです。

そうした体験も踏まえてのことでしょう。会長エレクトとして会員増強の重要性を強調するとともに「クラブをより温かく迎え入れる場所にする」と大切だと指摘しました。つまり単に数を増やすだけでなく、多様な背景を持つ人々が歓迎される環境を作ることが重要だということです。

最後にババロラ会長エレクトは締めくくりとして次のように語りました。

「自分を変えられれば、クラブと地区を変えられます。地区を変えられれば、地域社会を変えられます。そして、地域社会を変えられれば世界で、地域社会で、自分自身の中で、持続可能なインパクトを生み出すことができるのです」と。因みにここでいう「自分を変える」とは自分のベストを超えることを意味します。過去の募金活動やプロジェクト、会員増強の成功を振り返り、それを超えるべくさらに挑戦するよう私たちガバナーエレクトに呼びかけました。

ババロラ会長エレクトのメッセージに始まった本会議は毎回、目覚ましい活動成果を上げた世界各国のロータリアンたちが体験を紹介するという刺激的なプログ



ラムで進行しました。その中で驚いたのはインドのロータリアンでした。多額のドネーションを行ったという理由で本会議のステージに招かれたのです。その額は5000万ドル！本人いわくロータリー活動に係ることができたから今日の自分があるとのことで、全財産の85%に相当するという事でした。巨額な寄付にもかかわらず控えめな態度がとても印象的でした。

一方、「よく学んだ」のが分科会でした。毎回12~3人の小集団に分かれてガバナーとしてのスキルを磨くことを中心にラーニング形式で実施されました。昼食後の分科会には学習意欲をあざわらうかのように睡魔が登場しますが、その相手をしている暇などなく頭をひねり続けます。そしてその日の最後の分科会が終わった時には「頭脳疲労」困憊の状態です。ただ幸いなことにそれを癒すべくイベントが夜のとぼりが下りると同時に幕を開けます。

滞在中、毎夜国際色豊かに晩餐会が開催されました。ある日はエンドポリオの夜として参加者全員が赤い衣装を身に着けて臨み、別の日には参加国それぞれが自慢の文化や衣装を展示する文化デーも行われました。毎日が世界各国のエレクトと交わるチャンスであり、

気が付けば日本から持参した交換用の2710地区の私の年度のバッジは300個を超え底をついていました。

協議会を支えたのはスタッフなどの関係者以外にも会場となったホテルローゼン・シングル・クリークが存在がありました。超大規模施設で周辺をホテルのゴルフ場が囲み、ディズニーランドが遠望できました。そしてよく歩きました。4泊5日の間、ずっと屋内での行動でしたが、宿泊棟の7階の私の部屋から本会議場まで最短距離を選んでも10分近く。さらに本会議から分科会会場へ。その分科会会場は1回ごとに異なっていましたから、移動に次ぐ移動で1日が終わると私のスマホの万歩計は連日1万歩を超えていました。

「よく学び よく交わる」ことができた背景には「よく食べよく飲む」もありました。体もよく動かしましたが、ホテルの食事アルコールも私の舌と胃袋と相性がよかったのです。協議会を終えて帰宅して恐る恐る乗った我が家の体重計のメモリは渡米前と同じ数値を示していました。

何もかもが充実した日々であったことに派遣していただいた地区の関係者をはじめ多くの方々にお礼の気持ちを伝えたいと思います。感謝！





韓国3690地区との日韓交流事業受け入れ報告

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 インターアクト委員長
岸田 洋美

1983年に始まった第3690地区と第2710地区IACの日韓交流事業は、今年で39回目になります。これからの国際社会を担う若者、とりわけ高校生という最も多感な時期に異国の地でのホームステイを体験することは、歴史・文化を知りうる貴重な経験であり、人格を大きく成長させる機会になると思います。

今年の1月17日～19日、韓国から生徒10名、顧問教師1名ロータリアン5名、計16名が来日されました。1日目に歓迎会・ホームステイ研修、2日目・3日目に観光・帰国という旅程でした。

今年は山口県のIACが対象となり、ホスト校であるサビエル高等学校の伊藤先生が中心となり、山口県内各校と調整を図ってくださり、人数、男女比、アレルギーの有無も含めホームステイ先の選定、ペアリングまで奮闘していただきました。会場となる厚狭地域交流センターでは小野田RCのご尽力で確保ができ、歓迎会当日は、早朝より、小野田RC会長 吉田 壮司様を始め、ガバナー補佐 姫路 紀様、幹事 白石 光徳様、新世代育成委員会委員長 酒井 秀毅様、国際交流協会会長 永山 純一郎様方が会場設営のお手伝いをしてくださいました。心より感謝申し上げます。

1日目10:30、韓国の皆さんが無事に厚狭地域交流センター前に到着し、準備の整った会場では、日本のロータリアンや生徒たちが歓迎ムード一杯にお迎えをし、予定通り歓迎会がスタートしました。

今回、当地区参加のIACは、野田学園高等学校2名、サビエル高等学校3名、山口県立柳井商工高等学校1名、宇部工業高等専門学校1名、誠英高等学校3名、顧問教師3名、ロータリアン5名、通訳1名、計19名でした。

11:30、サビエル高等学校の堤美空さんの司会の元、入江さんの点鐘で幕を開け、両名の自己紹介と通訳の紹介があり、次に両国委員長の歓迎の挨拶がありました。次に韓国の生徒さん一人ずつ自己紹介、続いて日本の生徒さんの自己紹介と進み、ロータリアン、顧問教師の紹介が終わったところで、ホームステイの趣旨説明、注意事項、緊急連絡先の説明、最後に記念撮影をして歓迎交流会を閉幕しました。その後お弁当が配られ、生徒たちはペアでお弁当を食べながら、スマホの翻訳アプリを使ったり、身振り手振りを加えたりしながらコミュニケーションをとっていました。



食事も終わる頃にはホストファミリーのお迎えがあり、其々のお宅へ順次出発し、時間通り全員を見送ることができました。両国のロータリアンと顧問教師は、その後山陽小野田市厚狭にあるロータリアンの永山純一郎さんの酒蔵、「永山酒造合名会社」を訪問し、また、永山さんの従兄弟様の宇部市にある酒蔵「永山本家酒造場」へも訪問いたしました。観光後、懇親会を行い、友好を深めることができました。

翌朝集合場所でホストファミリーと生徒たちがにこやかな顔や別れを惜しむ顔で話している様子を見ると、安心感とともに胸が熱くなりました。3月の訪韓で再会することを誓い合い、皆で手を振ってお見送りをを行い終了しました。

受け入れを担当したサビエル高等学校の入江 結愛さんは、感想として、「言語の壁を越えた交流ができ、1日では足りないほど楽しかったです。最後に「日本が恋しくなりそう」と言ってくれてとても嬉しかったですし、別れるのがすごく悲しくて寂しかったです。短い時間だったとはいえ、今では大好きな親友です。本当にこの交流が出来て良かったと思っています。」

柳井商工高等学校 林 宥汰郎君は、「ホームステイを受け入れた当初は、色々な文化や言語が違うため通じ合えるのかと不安に思っていたのですが、実際に会ってみると色々な共通点がたくさんありました。三月には自分が韓国に行くので、色々な文化に触れてたくさんの新しい経験をしたいと思います。ホームステイを通じて様々なことで韓国と繋がることができ、とてもよかったです。」

生徒たちにとってもロータリアンにとっても有意義で貴重な経験であったと思います。誠にありがとうございました。



岩国中央RC 創立40周年記念式典報告

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 岩国中央RC 副幹事

丸小野 恵美

(岩国中央RC)

創立1986年1月29日の設立から40年の節目を迎えた岩国中央ロータリークラブは、2026年1月31日、岩国国際観光ホテルにおいて創立40周年記念式典並びに祝賀会を開催しました。当日は会員・来賓あわせて74名が出席し、これまでの歩みに感謝するとともに、未来への決意を新たにす一日となりました。

記念講演では、国際ロータリー第2710地区パストガバナー脇 正典様を講師に迎え、「ロータリーと山頭火」と題した講演が行われました。自由律俳人・山頭火の生き方と精神性を通して、ロータリーの奉仕の理念や人としての在り方を見つめ直す内容に、参加者は深く耳を傾けました。地域ゆかりの文化とロータリー精神とが重なり合い、心に響く時間となりました。

続く記念式典は、花柳梨道様による日本舞踊「七福神」の優雅な舞で幕を開け、華やかな雰囲気の中で開式されました。第41代会長・菊重隆之が式辞を述べ、創立以来40年にわたりクラブを支えてきた先達への感謝と、次世代へ責任をつなぐ決意を表明しました。2025-26年度会長テーマ「不易流行」～ロータリーをもっと知って もっと楽しもう～のもと、不変の理念を守りながらも時代に即した活動を展開していく姿勢が示されました。

来賓として、国際ロータリー第2710地区ガバナー土肥慎二郎様、岩国市長福田良彦様より祝辞を賜り、地域社会における同クラブの長年の奉仕活動に対する期待と激励の言葉が贈られました。

記念事業としては、岩国市「いこいと学びの交流テラ

ス」へ電波時計を寄贈。これは、施設を利用されるすべての方々にとって、正確な時を刻み、日々の活動の節目となる存在であってほしいとの願いを込めたものです。「親睦と奉仕」を理念に、これからも地域社会に寄り添い、未来を担う人々の学びと交流を支える活動を続けてまいります。

祝賀会では、本場徳島で活躍する阿波踊り連「平成連」による躍動感あふれ迫力ある演舞が披露され、会場は一気に熱気に包まれました。また、第31代から第40代までの歩みを振り返る映像が上映され、歴代会長・会員の努力と情熱が確実に歴史を刻んできたことを実感する時間となりました。終盤の総踊りでは参加者も輪に加わり、会場は一体感で盛り上がりました。ロータリーソング「手に手つないで」では平成連のメンバーも加わり、大きな輪となり、満開の笑顔で大変和やかなひと時でした。

最後は、国際ロータリー第2710地区パストガバナー西村栄時様の万歳三唱で締めくくられ、式典は盛会のうちに閉会しました。

40年の歴史は、多くの出会いと奉仕の積み重ねであります。次なる大きな節目である創立50周年へ向けた10年を見据え、同クラブは「不易流行」の精神のもと、伝統を守りながら時代の変化を受け入れ、ロータリーをより深く知り、より楽しむと同時に、地域社会に寄り添い、ともに発展を目指しながら、確かな未来へとその歩みを紡いでゆきます。





環境への取り組みについて [福山北RC] 「未来へ繋ぐ命の海」瀬戸内海地域資源維持回復事業

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 福山北RC会長
池田 敏明
(福山北RC)

本事業は、福山北ロータリークラブが中心となり、地域の豊かな海を未来へ繋ぐことを目的として取り組んでいる「瀬戸内海地域資源維持回復事業」です。穏やかな海として知られる瀬戸内海ですが、近年は海洋環境の変化により魚種の減少や漁獲量の低下、藻場の衰退などが課題となっています。こうした現状を受け、地域の自然を守り、次世代へ引き継ぐための具体的な行動として本プロジェクトがスタートしました。

瀬戸内海は、古くから豊かな海として人々の暮らしを支えてきました。しかし近年、魚種の変化や漁獲量の減少が顕著となり、地域の海は確実にその豊かさを失いつつあります。福山北ロータリークラブでは、飲食業に携わる会員や釣りを趣味とする会員から寄せられる現場の声を受け、海の変化を深刻に受け止めました。「自然はもう悲鳴をあげている」。この危機感こそが、本事業の出発点となりました。世界的にSDGsが注目され、目標14「海の豊かさを守ろう」が掲げられた時期でもあり、ロータリーの重点分野に「環境」が加わったことも大きな後押しとなりました。杉川ガバナー年度には地域課題に向き合う「ロータリー奉仕デー」の実施が要請され、クラブとして海洋環境保全に本格的に取り組む機運が高まりました。見る・聞く・体験することで、一人ひとりが海の現状に気づき、特に若い世代にその大切さを伝えたいという思いが、この事業の根底にあります。

■ 活動の舞台づくりと協力体制

事業の実施場所として選ばれたのは、内海町田島のクレセントビーチです。安全性を最優先に、トイレや駐車場などの設備が整っていること、そして管理者である田島漁協の全面的な協力が得られたことが決め手となりました。また、1978年ロータリー財団奨学生であり、環境教育の実践者として知られる池原聡氏(ちゅうごく環境ネット理事長)の協力を得られたことも大きな

力となりました。さらに、英数学館インターアクトクラブ、福山海洋少年団、児童養護施設こぶしヶ丘学園など、多様な団体が参画し、地域ぐるみの活動として広がりをを見せています。

■ これまでの取り組み

本事業の中心となる活動の一つが「アマモ場の再生」です。アマモは海の生態系を支える重要な役割を持ち、魚の産卵や稚魚の生育の場となる“海のゆりかご”と呼ばれています。しかし近年、瀬戸内海ではアマモ場が減少し、生態系への影響が懸念されています。そこで、アマモの採取、種子の選別、播種(はしゅ)といった作業を段階的に行い、藻場の回復を目指しています。これらの作業には地域住民や学生、行政関係者が参加し、環境保全への理解を深めながら継続的に取り組んでいます。

2022年には「ロータリー奉仕デー」として、メバルの稚魚放流、海岸清掃、環境学習を実施。翌2023年には地曳網体験やオニオコゼの稚魚放流など、海を“学び・遊び・守る”活動を継続しました。そして2024年、鞆の浦ロータリークラブとの合同ロータリー奉仕デーとして、アマモ場造成に本格的に着手しました。瀬戸内海の生態系を再生するためには、アマモ場の回復が欠かせません。

2024年6月には竹原沖でアマモ採取を行い、収穫したアマモを玉ねぎネットに詰め、田島漁港の水槽で葉や茎を腐敗させて種子を分離しました。9月には30名が参加して種子選別を行い、発芽を防ぐため冷蔵保管と定期的な海水交換を実施。11月には120名もの参加者が集まり、クレセントビーチでアマモ種子の播種を行いました。2025年2月には発芽・生育が確認され、活動の成果が確かな形で現れ始めています。

■ アイゴ対策と新たな展開

瀬戸内海の藻場を衰退させる大きな要因の一つが、





食害生物アイゴの増加です。アマモや海藻を大量に食べ尽くすため、藻場再生の妨げとなっています。クラブでは防護網の設置や捕獲かごの設置など、実践的な対策に取り組み始めました。2025年には捕獲したアイゴの試食会も行われ、食材としての可能性を探る取り組みも進んでいます。

こうした活動は行政や企業にも広がり、福山市と食材宅配サービス会社が「海洋環境改善に向けた個別連携協定」を締結。田島漁協が一次加工を担い、アイゴの有効活用と藻場再生を両立させる仕組みづくりが始まりました。さらに、福山市の新年度予算案にはアイゴ対策費用が計上され、行政の支援も本格化しています。

■ 若い世代の変化と広がる波紋

活動を通じて、若い世代にも確かな変化が生まれています。インターアクトクラブの生徒からは「アマモの生育を研究し論文にまとめたい」「アイゴを福山ならではの食材として料理を開発したい」といった声上がり、環境保全を自分ごととして捉える姿勢が生まれています。これは、クラブが目指してきた「体験を通じた気づき」が確実に実を結び始めている証です。また、本活動を通じて若い世代の主体的な参加が生まれていることも大きな成果です。地域の海の魅力を発信したいといった声が上がっています。環境保全活動は、単なる作業ではなく「学び」と「地域づくり」を結び付ける重要な機会となっています。

■ 今後の展望

本プロジェクトは、短期間で成果が見えるものではありません。海の世界は長い時間をかけて変化してきたものであり、回復にも継続的な努力が必要です。しかし、地域の人々が同じ目的を持ち、知恵を出し合いながら取り組むことで、確実に変化は生まれています。活動

を通じて人と人が繋がり、地域への愛着が深まることも、この事業の大きな価値です。

2025-26年度、そして2026-27年度に向けて、事業はさらに発展していきます。アマモ場造成範囲の拡張、ガラモ場の育成、アイゴ対策の強化、食用化の推進など、多角的な取り組みが計画されています。これらの活動は単発ではなく、定期的な経過観測を行いながら、継続的かつ科学的に進められる点に大きな意義があります。

さらに、事業を象徴するロゴやパブリックアートの制作も検討されており、視覚的な訴求力を高めることで地域住民の関心を喚起し、参加者の裾野を広げる狙いがあります。これはクラブ会員のモチベーション維持にもつながり、活動の持続性を高める重要な要素となるでしょう。

■ 終わりに

福山北ロータリークラブは決して大きなクラブではありません。しかし、「大きな志を持ち、楽しみながら活動することがクラブの活力を生む」という信念のもと、地域の海を守るための挑戦を続けています。同様の取り組みを行う団体とも連携し、ロータリーならではの彩りを加えながら、相乗効果で海洋環境の改善に貢献していくことを目指しています。

この活動は、単なる環境保全事業ではなく、地域の未来をつくる物語です。世代を超えて協力しながら、豊かな瀬戸内海を次の世代へと手渡していく。その歩みはこれからも続いていきます。

豊かな海は、地域の暮らしや文化を支える大切な財産です。未来の子どもたちに美しい海を残すために、私たちはこれからも行動を続けていきます。本事業へのご理解とご協力をいただき、地域全体で「命の海」を守り育てていけることを願っています。





環境への取り組みについて[吉舎RC] ホタルの里づくりプロジェクト事業

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 吉舎RC 社会奉仕担当

吉崎 秀峰
(吉舎RC)

※今日まで…

2006年、ベテラン会員の「昔、子どもの頃この裏の馬洗川で泳いどったんじゃが、あの頃夜になると空が明るくなるほどホタルが乱舞しよった。」という話から盛り上がり、みんなの散歩コースでもあった吉舎町街の丁度裏を流れる馬洗川の自然環境の改善を目的とした、市民参加型の継続事業をすることとなり、翌2007年「ホタルの里づくりプロジェクト」を立ち上げました。

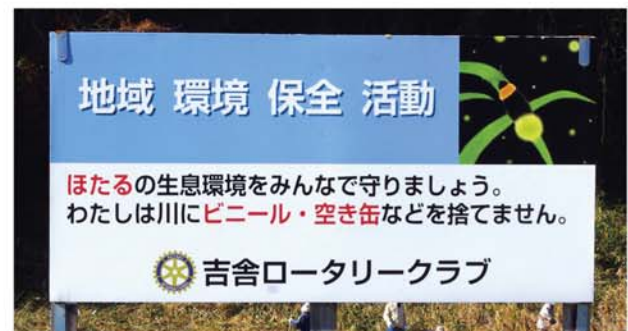
それというのも、私たちが活動場所としている吉舎街の丁度裏を流れる馬洗川には当時、流木、びん、空き缶、プラスチックなど様々な生活ゴミがあちこちに散乱し堆積した状態で、ホタルが飛ぶシーズンになっても、ただ一つ二つなどほのかにうち光りていく程度で、ホタルの多く飛び違いたる姿は見ることができず、かつてホタルが乱舞していた豊かな自然の馬洗川を彷彿とさせるものを見出せない寂しい散歩コースの状態でした。

この様な現状からもう一度ホタルの多く飛び違いたる自然豊かで散歩する皆が癒される環境を再び取り戻す活動にしました。

そのためには、次のような環境を取り戻すこととしました。

- (1) 年間通じて安定した流れであること
- (2) 合成洗剤や農薬などの汚水が流入しない
- (3) 生活ゴミが散乱していない
- (4) 水辺に土があり草や木が生えている
- (5) 泥水が流れない
- (6) 多様な生物が多く生息する

最初の取り組みは、私たちの活動が一般市民にも理解されるよう、



という看板を制作し馬洗川の堤防近くに2カ所設置しました。

初期の具体的な活動としては、活動場所の防犯灯を、蛍光灯からホタルに優しい低誘虫蛍光ランプに変えたり、夏と冬には、数回全会員が川入りホタルの餌となるカワニナを、多い時には約1,000匹拾い集め活動場所に放流しました。

これらの活動を市民参加型の継続事業に発展させました。

吉舎自治振興会連声会、馬洗川自然塾、ひろしま生きた自然博物館のメンバーと小学生生徒、保護者からなる「ホタルの里づくりの会」を2008年5月に結成し、発足会では、当時の祇園北高校内藤順一先生に「環境に優しいふるさとづくり」と題して講演をしていただき、その後馬洗川に移動して水中生物調査をおこないました。当日の夜間にはホタル観察会も開催しました。次ぐ2009年には広島市森林公園昆虫学芸員 坂本充氏に来て



カワニナの放流



河川のゴミ拾い



いただき生態調査も行いました。吉舎小学校4年生児童と生態調査を行い、川の中から手網ですくった小生物の生態についても教示して頂きました。この生態調査は継続して行い、カワニナの他ハヤ、鮎、フナ、うなぎ、どじょう、オオサンショウウオなどたくさんの生物を採取したこともありました。生態調査をとおして馬洗川の水質はホタルの生育場所に問題無いこともわかりました。

また、河川環境整備事業の一環として、吉舎小学校4年生の児童と、活動場所の清掃活動(ゴミ拾い)も毎年実施しており、清掃活動の後には、カワニナも放流しています。残念なことは、毎年清掃活動を行ってもゴミが無くなりません。が、このような地道な活動が功を奏してか、活動場所の馬洗川にホタルが乱舞とまではいかないまでも多くのホタルが飛び違う光景が毎年見られるようになってきています。

吉舎ロータリークラブの活動をより市民の皆様を知っていただく広報活動の一環として、ここ数年、クラブ社会奉仕委員長が吉舎小学校にホタルの生態について出前講座を開催しています。

講座の内容は、予めホタルの生態に関する質問を児童の皆さんからいただきそれに答えることから始まります。質問としては、

- (1) ホタルの種類はどれくらいですか
- (2) ホタルの幼虫は何も食べないのですか
- (3) ホタルはどうしてお尻を光らせているのですか
- (4) ホタルが卵を産む時期はいつ頃ですか
- (5) ホタルの天敵はどんな虫ですか

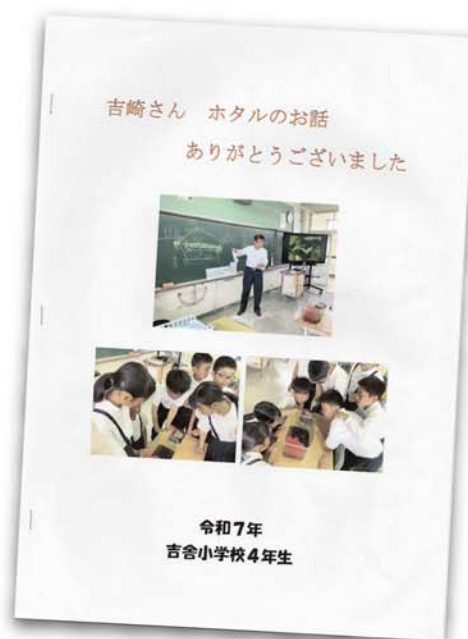
など多くの質問が寄せられています。



出前講座

出前講座の時期がホタルが乱舞する6月になると、教材としてホタルとカワニナを持って行くとほとんどの児童がホタルやカワニナを初めて間近で見るとおほしく非常に興味を示してくれます。ある年には、卵を水槽で孵化させて大人でさえも見たことの無いホタルの幼虫を小学生に見てもらったこともあります。

最近では、出前講座の後、児童の皆さんからお礼の作文を頂くようになりました。作文のほとんどに、初めてホタルを見た。ホタルのお尻が光っていた。カワニナを触った。などと書いてありました。



作文表紙

※そして明日から…

自然の中での活動ですから自然の回復力も最大限に活用して、積極的に身近な小生物を呼びもどすことにより、多様な生物が多く生息するビオトープづくりを行うことが重要で、「ホタルの里づくりプロジェクト」はその活動の一環に過ぎません。我々の地道な活動によって地域住民の皆さんの認知度が増してきたこれらの活動を、地元の自治振興連合会や若者の会などに呼びかけ市民主導の継続事業に発展させたいと考えています。



IM報告 [G2]

「あなたのクラブをデザインしてみよう」

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 G2ガバナー補佐
姫路 紀

国際ロータリー第2710地区グループ2 インターシティミーティングを1月24日(土)、国際ホテル宇部において開催しました。

グループ内、7ロータリークラブ会員のご出席、ご来賓として土肥慎二郎ガバナー、金子 信バスターガバナー、東 良輝バスターガバナー、金子博巳ガバナー補佐エレクトのご臨席を賜り、130名のロータリアンが参加しました。

オープニング映像による山陽小野田市の紹介が終わり、開会点鐘ののち西村雄一IM実行委員長の開会の言葉により開会しました。

ホストクラブである小野田ロータリークラブ 吉田 壮司会長の歓迎の言葉を述べ、ご来賓の土肥慎二郎ガバナーよりお言葉を賜りました。

基調講演は、「あなたのクラブをデザインしてみよう」というテーマで問題提起をいたしました。

これは、各ロータリークラブを訪問したなかで、各クラブの特色ある活動や諸問題を抱えている現状を見聞きました。クラブの現状・課題・自慢できることを全員参加型ワークショップで「会員増強・親睦をデザインしてみよう」というテーマで話し合っていました。

問題提起において、デザイン思考によるクラブの現状把握のしかた、それはユーザーである会員中心主義を基軸として、「共感」「定義」「概念化」「試作」「テスト」といった五つの過程を経て取り組むことを示唆し、「なぜ親睦は必要なのか、なぜ会員増強をはかるのか?」ということに的を絞ってみました。

会員増強への取り組みはどのクラブも重要な課題がありますが、私自身の職業分類(仏教)の観点から、本願寺第八代宗主蓮如上人にみる組織拡充(教線拡大)の手法を例に、ロータリーの組織拡充への取り組みを提唱しました。

ワークショップは無作為に10班に分かれた話し合い

で「あなたの一番の親睦の思い出は?」「やってみたい親睦は?」「会員増成功例を教えてください。」「会員増強で大切なことは。」「会員増強と親睦の関係は?」というテーマで熱心に話し合いをし、最後に班別発表があり互いに情報共有をすることができました。

懇親会は、フラダンスでのオープニングの後、金子 信バスターガバナーによる乾杯の音頭で始まりました。クラブごとのテーブル配置でしたが、ワークショップで同じ班だった方々同士の歓談もなされ、大いに盛り上がりました。

ロータリーソング「手に手つないで」親睦の輪も最高潮に達し、次年度IM開催地の萩東ロータリークラブ 金子博巳ガバナー補佐エレクトよりご挨拶いただき、万歳三唱で幕を閉じました。

今回のIM開催にあたり実行委員会を組織するなかで、みんなで話し合いたいという要望や、IMを開催する必要があるのかとの声もありました。

フランチエスコ・アレッツォRI会長メッセージ UNITE FOR GOOD「よいことのために手をとりあおう」ということの具現化のためには、ロータリーの親睦とは「奉仕の理念」を会員同士が共有するために、理解を深め信頼関係を築くことにあります。

親睦を深める方法として、クラブ例会を基本として夜間例会や家族例会、各種同好会や地域ぐるみのイベントなどの取り組みがありました。これは、土肥慎二郎ガバナー信条の「Enjoy Rotary」～思いやりと奉仕の心をもって～を体現するものであります。

当日は厳寒のなか、降雪による天候も危惧されましたが、多くのロータリアンが一堂に会し、ロータリー情報を学び、親睦を図るインターシティミーティングを盛会裏に終えることが出来ましたことは、偏に関係各位のご理解ご協力の賜物であると深く感謝する次第であります。

本当にみなさまありがとうございました。



開会挨拶



基調講演



ワークショップ



IM報告 [G3]

「未来の子どもたちのために今出来ること！」

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 G3ガバナー補佐
馬越 帝介

去る2月14日、山口南ロータリークラブをホストクラブとして、本年度のインターシティミーティング(IM)を開催いたしました。山口南RC主管のIMは6年前、開催2日前にコロナの影響で中止になり、12年ぶりの開催に期待と不安が入り混じる雰囲気の中での開催となりました。

しかしながら、グループ内の各クラブより多くの会員の皆様にご参加いただき、盛会のうちに全日程を終了できましたことを、まずは心より厚く御礼申し上げます。

本年度のIMは、「未来の子どもたちのために今出来ること！」というテーマを掲げました。急速に変化する現代社会において、次世代を担う子どもたちの成長を支えることは、地域社会のリーダーである我々ロータリアンに課せられた、最も重要かつ緊急性の高い責務であると考えたからです。

歓迎の志と結束の始まり

開会にあたり、ホストクラブである山口南RCの青木正治会長より、温かな歓迎の辞をいただきました。山口南RCの皆様の結束力が、会場全体の空気を一気に引き締め、かつ和やかなものへと変えてくださったことが、その後の充実した講演の土台となりました。

アナログとデジタルの融合:二人の講師による提言

本メインプログラムである講演では、対極にあるように、実は根底で繋がっている二つの視点から、子どもたちの未来を考察いたしました。

第一部では、やまぐち昆虫楽会 会長の角田正明氏にご登壇いただきました。角田氏からは、虫の生態について興味深いお話を頂きました。特に最後の地球温暖化による昆虫の分布変化の話は未来の子どもたちに残すべき自然環境と自然教育の重要性を説かれました。実際に土に触れ、生き物の鼓動を感じる「アナログな体験」が、子どもの好奇心を刺激し、困難に立ち向かう「生きる力(非認知能力)」を育むというご示唆は、効率化が進む現代において、私たちが忘れていた大切な視点を再認識させてくれるものでした。

第二部では、株式会社こどもCandy代表の手塚麻里氏より、最先端のデジタル教育の最前線についてお話しいただきました。メタバースや「子どもEXPO」を通じた創造的な学びの場は、子どもたちが場所や身体的制約を超えて自己表現を行い、未知の世界へ挑戦する可能性を広げています。テクノロジーを単なる道具としてではなく、未来を切り拓く「創造性の翼」として活用する手法は、我々大人にとっても極めて刺激的な内容でした。

「車の両輪」としての大人たちの役割

お二人の講演、そしてその後のディスカッションを通じて浮き彫りになったのは、子どもたちの健やかな成長には、「普遍的な自然体験」と「進化するテクノロジー」の双方が、車の両輪のように不可欠であるという事実です。

どちらか一方に偏るのではなく、土の温もりを知りながら、デジタルの海を自在に泳ぎこなす。そんな豊かな感性と技術を併せ持った次世代を育てるために、私たち大人が「今」できることは、彼らが挑戦し、失敗し、そしてまた立ち上げられる「場」を守り、提供し続けることではないでしょうか。

親睦と未来への誓い

フォーラム後の懇親会では、講師のお二人を囲み、各クラブの枠を超えた活発な交流が行われました。クラブの垣根を超えた交流が各所で見られたことは、主催者としてこの上ない喜びでした。ロータリーの絆が、単なる親睦に留まらず、具体的な社会奉仕へのエネルギーへと変わる瞬間を目の当たりにいたしました。

結びに

最後になりますが、本IMの企画・運営に多大なるご協力をいただいた山口南ロータリークラブの皆様、そして公私共にご多忙の中ご参加いただいた会員の皆様に、重ねて深く感謝申し上げます。

それぞれの地域で「未来の子どもたちのために」新たな一歩を踏み出される事を祈念して、本年度IMの実施報告とさせていただきます。





IM報告 [G6・7]

「奉仕を通じて魅力的なクラブ作りを」

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 ガバナー補佐

グループ6 佐伯 正道

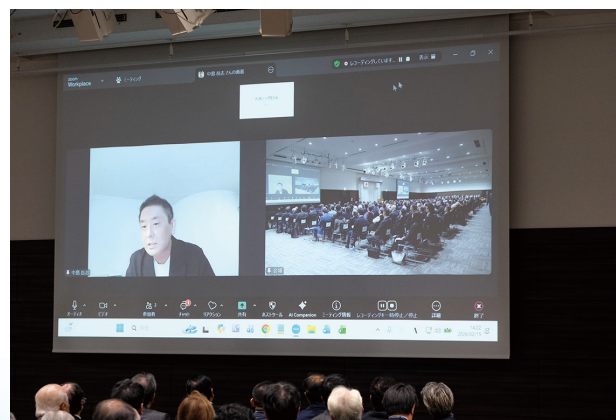
グループ7 田上 剛

国際ロータリー第2710地区グループ6・7の合同インターシティミーティングは、2026年2月15日、土肥ガバナーを初めとする来賓の皆様にご臨席いただき、500名以上のロータリアンが集まって、広島コンベンションホールで初めて行なわれました。

基調講演では、中島岳志教授(東京科学大学、旧東京工業大学)が『利他と中間団体』というテーマで講演されました。中島先生は、「利他」の本質や構造について、利己とのパラドクス、受け手により規定されること、与え手がコントロールしてはならないこと、受け手の潜在能力(ポテンシャル)を引き出す必要があること、など数々の視点や視座を指摘されました。さらに、志賀直哉の『小僧の神様』という短編小説の中で、主人公が小僧に対して寿司をご馳走するという「利他」行為の後に淋しさや後ろめたさの感情が残ったという叙述に関し、「利他」は内心から自然に湧き上がってきて、思いがけず行うものではないかと述べられました(「主格」ではなく「与格」)。また、「中間団体」について、アメリカ社会は分厚い中間団体(ロータリークラブも含まれます。)によって支えられてきたことも指摘されました。こうした中島先生の基調講演は、われわれのロータリークラブが今後の奉仕活動を進め、クラブを活性化する上で極めて示唆に富む内容だったと思います。

引き続き場所を移し、初めてシェラトングランドホテル広島で懇親会が行われましたが、料理やサービスが好評で、ゆったりとして寛ぐことができたとの声が聞かれました。

グループ6・7のロータリアンの皆様、ホスト役を務めていただきました大畑哲也実行委委員長をはじめ広島城南ロータリークラブの皆様、広島ロータリークラブの皆様、シェラトングランドホテル広島のスタッフの皆様に感謝とお礼を申し上げます。





第16期 RLIパートI開催報告

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 RLI委員会 委員長
小西 直人

RLIは、1992年にアメリカ7510地区で始められたロータリーにおける最大の草の根の指導力養成プログラムであり、現在では世界の80%近い地区が参加しています。日本では2008年6月にRLIの日本支部が発足し、歴代の日本支部委員長のご努力が実り34地区のうち31地区が参加しています。

我々2710地区は南園義一PGが導入にご尽力されたため、ごく初期からRLIを導入し、途中コロナ禍での3年間の休止はあるものの今期で第16期目を迎えます。そのパートIが地区内55クラブから78人、地区外2680地区川西RCから1名の合計79名の参加をえて、2026年1月25日に広島YMCAで開催されました。

会場には9時にファシリテーター18名、土肥G、井内PG、杉川地区ラーニングファシリテーター、脇GE、小根森GN、プラン・マネージャー2名、地区事務局3名の28名が集まり、本日の進め方等の確認を行いました。

そして10:00よりAからFの6クラスに分かれ、各クラス共にコの字型に配列された机に参加者が着席し『ロータリーのリーダーシップ』のセッションが開始されました。各クラスに配置されたファシリテーター3名の内の1人がセッションを担当し、最初はアイスブレイク目的もあり参加者の自己紹介、その後「あなたのクラブでこの人はリーダーシップがあると思う人を心に思い浮かべてください」、「その人は、リーダーとしてどこが優れているか教えてください」、「企業におけるリーダーシップとロータリークラブでのリーダーシップは違うと思いますか」などをファシリテーターが問いかけ、それに対して参加者が意見を言い、クラス毎に

活発な意見交換がなされました。パートIが始まるまでにファシリテーターはZoomで7回、実際の会場を使っての研修を2回、合計9回の事前研修を行います。その中で常に言われることは「語るな、語らせよ!」、「振って振って振りまくれ!」の2点です。ファシリテーターは自分が知識を伝えるのではなく、自分の知識をうまく使って参加者から議論を引き出す役割です。

10分間の休憩の後、だんだんと緊張がほぐれていく中で『私のロータリー世界』、お昼休みを挟んで『倫理と職業奉仕』、『財団I-私たちの財団』、『会員の参加を促す』、『奉仕プロジェクトを創造する』と順調に6時限迄のセッションが行われました。セッションの題名だけ見るといかにも堅い感じですが、実際にはファシリテーターのうまい持ちかけに参加された方は自分の経験や考え方をフランクに答えていただいていたようです。

全てのセッションの終了後、地下の大会議室に全員が集合し、RLIのパートIからⅢまでの全てのセッションを終了した9名に対し、井内PGより修了証書と修了バッヂが手渡され、杉川LFからウイットに富んだ講評を頂き、無事パートIを終了しました。

RLIセミナーに参加された方の多くから、他クラブの会員の考え方やクラブ運営の方法等を聞けることがとても参考になるというフィードバックをいただいています。参加者お一人一人の「ロータリアンとしての成長とロータリー観の確立」を助ける事がRLIの最終目的ですが、セミナー参加はその大きなきっかけづくりとなります。大勢の皆様はRLIセミナーに参加頂き、クラブや地区において活躍して頂きたいと願っています。



セッション風景



修了証授与



全体会議 講評

国際ロータリー第2710地区
— 2025-26年度 新会員紹介 —



佐藤 友祥
下関RC
2026年3月2日
電力供給



藤井 了太郎
美祿RC
2026年2月10日
卸売業



岡田 光弘
広島空港RC
2026年2月4日
古物商



故 鷺頭 信殿
長門RC
2026年2月11日 ご逝去
(享年89歳)
【職業分類】
旅館
【ロータリー歴】
1999-00年度 クラブ会長
1993-94年度 クラブ幹事
2012-13年度 ガバナー補佐
ボール・ハリス・フェロー
米山功労者



故 嶋田 修作 殿
広島安芸RC
2026年3月1日 ご逝去
(享年91歳)
【職業分類】
建築内装工事
【ロータリー歴】
2001-02年度 会長
ペネファクター
マルチプル ボール・ハリス・フェロー
米山功労者マルチプル



故 武田 保信 殿
呉RC
2026年1月31日 ご逝去
(享年90歳)
【職業分類】
水産資材販売
【ロータリー歴】
2003-04年度 会長
マルチプル ボール・ハリス・フェロー (PHF+)
第4回米山功労者マルチプル

謹んで哀悼の意を表します

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度会員増減・出席率(2026年2月度)

グループ	クラブ名	平均出席率	会員数				
			年度初7/1	当月末日	内女性	本年度入会	本年度退会
1	長門	84.99	25	24	3	1	2
	下関	72.92	43	44	2	2	1
	下関中央	68.91	38	42	7	4	0
	下関東	69.71	65	66	6	3	2
	下関北	73.26	58	58	4	1	1
	下関西	80.16	33	31	0	0	2
	計	74.99	262	265	22	11	8
2	萩	78.10	42	39	3	1	4
	萩東	85.99	25	23	1	0	2
	美祿	71.58	18	22	1	4	0
	小野田	82.29	31	37	4	8	2
	宇部	94.73	38	39	5	3	2
	宇部東	75.23	9	9	1	0	0
	宇部西	86.32	49	50	6	1	0
計	82.03	212	219	21	17	10	
3	防府	90.80	57	59	3	3	1
	防府北	84.48	22	22	3	1	1
	防府南	86.19	44	45	9	1	0
	山口	78.61	44	48	5	5	1
	山口県央	87.64	24	26	2	2	0
	山口南	92.62	42	41	7	0	1
計	86.72	233	241	29	12	4	
4	光	77.60	52	53	5	2	1
	周南西	82.38	57	57	6	3	3
	徳山	99.34	40	43	2	5	2
	徳山セントラル	79.61	20	22	3	2	0
	徳山東	100.00	42	42	2	0	0
計	87.79	211	217	18	12	6	

グループ	クラブ名	平均出席率	会員数				
			年度初7/1	当月末日	内女性	本年度入会	本年度退会
5	岩国	77.02	66	67	1	2	1
	岩国中央	86.40	38	38	6	1	1
	岩国西	84.82	64	65	6	2	1
	柳井	88.63	25	24	1	0	1
	柳井西	99.05	26	26	6	0	0
計	87.18	219	220	20	5	4	
6	広島	99.54	123	131	3	13	5
	広島安芸	99.75	33	34	4	2	1
	広島安佐	82.04	13	18	3	6	1
	広島東	96.29	108	125	14	18	1
	広島北	93.58	102	103	0	2	1
	広島陵北	96.79	44	46	4	4	2
大竹	86.53	24	25	0	2	1	
計	93.50	447	482	28	47	12	
7	広島中央	100.00	62	68	5	8	2
	広島廿日市	86.41	24	21	2	1	4
	広島城南	100.00	40	39	3	1	2
	広島南	100.00	86	87	0	4	3
	広島東南	100.00	84	84	12	4	4
	広島西南	99.56	77	78	5	4	3
広島西	99.42	92	92	7	2	2	
計	97.91	465	469	34	24	20	
8	江田島	92.94	17	15	0	0	2
	東広島	82.25	23	25	3	2	0
	東広島21	86.50	21	22	3	2	1
	呉	85.56	71	70	5	0	1
	呉東	75.55	34	35	3	2	1
	呉南	91.42	43	44	1	1	0
	西条	99.67	44	46	1	2	0
広島新世代	85.94	0	21	3	22	1	
計	87.48	253	278	19	31	6	

グループ	クラブ名	平均出席率	会員数				
			年度初7/1	当月末日	内女性	本年度入会	本年度退会
9	広島空港	82.13	28	28	4	1	1
	因島	94.31	14	14	0	4	4
	三原	88.88	49	50	1	2	1
	尾道	73.53	77	78	2	1	0
	尾道東	86.65	47	48	7	3	2
計	85.10	215	218	14	11	8	
10	府中	86.85	14	15	3	2	1
	福山	94.05	85	84	2	5	6
	福山東	75.40	32	34	2	5	3
	福山丸之内	87.94	22	22	1	0	0
	鞆の浦	72.18	15	15	0	0	0
	福山REC2710*	100.00	7	7	1	0	0
計	86.07	175	177	9	12	10	
11	福山赤坂	83.72	52	52	4	1	1
	福山北	92.00	32	29	2	0	3
	福山南	70.86	56	58	4	3	1
	福山西	86.65	40	38	4	2	4
	松永	95.59	54	55	8	2	1
計	85.76	234	232	22	8	10	
12	吉舎	93.63	9	9	0	0	0
	三次	73.22	40	41	1	2	1
	三次中央	93.09	33	32	5	0	1
	庄原	90.95	26	25	2	0	1
東城	92.51	14	13	0	0	1	
計	89.76	122	120	8	2	4	
第2710地区計	86.56	3048	3138	244	192	102	

*正式名称「福山ロータリーEクラブ2710」